

# 個別論点ごとの議論

---

デジタル空間における情報流通の諸課題への対処に関する検討会  
青少年保護ワーキンググループ(第2回)

令和 7 年 1 2 月

## 【発信リスク】

- ・ペアレンタルコントロール機能の実装に向けた措置等、発信に係るリスクに対してもプラットフォーム事業者やOS事業者等の取組を促すことについてどう考えるか。

## 【有害広告】

- ・インターネット上の媒体において、自ら広告掲載基準を定めるなど、媒体側での自主的な取組を促すような方策を講ずることについてどう考えるか。

## 【第1回WGでの各構成員のご発言（概要）】

- 生成AIの出現により、子ども自身が危ういコンテンツを大量かつ容易に生成しうる側になるという変化があることを踏まえて議論した方が良い。これまで想定していなかった新しい責任と保護領域が生まれているのではないか。
- 生成AIが子どもに対して与える悪影響、特にセクストーション、ディープフェイクポルノの問題についても背景において議論すべき。
- レコメンドアルゴリズムの働くソーシャルメディアというプラットフォームの構造を念頭におきながら、新たなリスクへの対応を考えなければならない。
- 日本において青少年のインターネット利用に関する包括的な法令が環境整備法しかないにもかかわらず、同法が制定されてから20年近く経過して自主的な改正が1回のみであり、新たなリスクへの対応が制度上でできていない。SNSは一律に禁止することは現実的ではないため、発信に関するリスクへの対応を考えていくことが重要。
- スマホは通信回線を意識しないので通信事業者がフィルタリングだけがんばっても効果は期待できない、関係事業者の責任について改めて見直す必要あり。
- スマートフォンの普及により、垂直統合モデルが崩れ、青少年保護における各アクターが果たすべき役割と、現在の法的規律とのアンバランスが生じている。

### 【民間による年齢制限】

- ・ コンテンツや機能について一律に国が評価を行うことは、政府による表現内容への介入であり、表現の自由等との関係で極めて慎重であるべきであることを踏まえ、**民間において、青少年の年齢と発達段階に応じた適切な機能が提供される仕組み**についてどう考えるか。

### 【年齢確認】

- ・ 携帯電話事業者に対して、法第13条に規定される**購入時の青少年確認義務**について、現行では88%であるところ、厳格な履行を求めることについてどう考えるか。

### 【第1回WGでの各構成員のご発言（概要）】

- ICTリテラシー教育については、**年齢に応じた教育**について検討が必要。

## 【フィルタリング以外の保護策】

- ・ 青少年に有害なおそれがある情報に対して、青少年による閲覧機会をできるだけ少なくするための保護者や本人の同意を前提とした技術的手段として、例えば、18歳未満ないし特定の年齢層に限定したフィルタリングや広告表示抑制機能アプリや「視聴・アクセス制限」を含め、どのようなものがあり得るか。

## 【フィルタリングの改善】

- ・ 閲覧防止技術等の技術的保護手段の開発・実装を促す手段として、フィルタリングソフトウェアの改善や事業者の新規参入を促すことについてどう考えるか。

## 【第1回WGでの各構成員のご発言（概要）】

- SNSの普及により、リスクが多様化し、依存の問題、メンタルヘルスの問題、オンラインカジノの問題等が新しく生じている。また生成AIにまつわるリスクも出現。
- スマホは通信回線を意識しないので通信事業者がフィルタリングだけがんばっても効果は期待できない、関係事業者の責任について改めて見直す必要あり。〈再掲〉
- スマートフォンの普及により、垂直統合モデルが崩れ、青少年保護における各アクターが果たすべき役割と、現在の法的規律とのアンバランスが生じている。〈再掲〉
- 有害情報の閲覧防止だけでなく、生成・発信の安全設計や発達支援のバランス設計も考えなければならない。

- 一部のプラットフォーム事業者において講じられている青少年保護に関するサービス提供上の工夫といった自主的な取組について、こうした取組を広げ、提供されるサービスの性質に応じた対応の更なる促進を図るための方策等についてどう考えるか。

### 【第1回WGでの各構成員のご発言（概要）】

- プラットフォーム事業者の取組の促進は非常に重要。
- リスクの低減だけでなく、こども自身の発信、創作、参加といったエンパワーメントに繋がるような権利やこどものウェルビーイングの指標という観点も重要。安心安全と情報アクセスや創作、発信のエンパワーメントのバランスをとるような指標を作るべき。
- 全国で実施されている有益な広報及び啓発活動について知見を集積し、広めていくために議論していきたい。